

【樹木の部屋】

ヒサカキ（モッコク科ヒサカキ属 *Eurya japonica*）

和名：ヒサカキ（姫榊） **別名**：ビシャコ、ビシャ、ヘンダラ、ササキ

英名： Japanese Eurya

ツツジ目 常緑小高木

原産地：日本、朝鮮半島

花言葉：神を尊ぶ、内気、治癒

花の色：クリーム



← 写真-1 ヒサカキ

撮影日：2017年04月01日

撮影場所：平城宮跡東院庭園
(奈良市)にて

撮影者：M さん

→ 写真-2 ヒサカキの花

撮影日：2017年04月01日

撮影場所：平城宮跡東院庭園
(奈良市)にて

撮影者：M さん



奈良市の平城宮跡にある東院庭園を訪れた際、見かけました。

墓・仏壇へのお供えや玉串などとして、宗教的な利用が多いヒサカキです。年間を通じて艶のある葉をつけるためサカキ同様に縁起の良い木とされ、神棚へ供える玉串に使われているそうです。開花期は2月～4月。

名前は、サカキみたいだがサカキに非(あら)ず→非サカキが由来とか・・・。
また、サカキより小振りという意味で「姫サカキ」→ヒサカキという説もあるそうです。また、学名のエウリアはギリシア語で、「広い」を意味し花びらや萼の形にちなむそうです。

古来サカキが生育していない地域では、サカキの代用品として利用されたよ

うです。その地方では神棚に祭る植物が、「サカキ」と呼ばれるようになり、地方によって「サカキ」は、ヒサカキであったり、ツバキであったり楠であったり、さらには杉を指す地域もあるようです。

ヒサカキは、サカキに比べて枝葉が密生し、移植もしやすいため、庭木としてはサカキよりヒサカキが幅広く使われているそうです。

<ちょっと一言>

＊ サカキ科ヒサカキ属あるいは科ヒサカキ属と記載されている書籍もあります。

＊ ヒサカキの仲間

- ・ハマヒサカキ [*Eurya emarginata*]

暖かい地方の海岸などに多く自生し、ヒサカキよりやや小型で庭木や生垣のほか、中央分離帯の植え込みなど公共の場での利用も見られます。また、塩害に強いので防潮の生垣にも用いられます。変種に葉が小さなヒメハマヒサカキがあります。

- ・ヒメヒサカキ [*Eurya yakushimensis*]

屋久島固有の種で葉が小さいのが特長。